

## 星港、11年取扱量2990万TEU

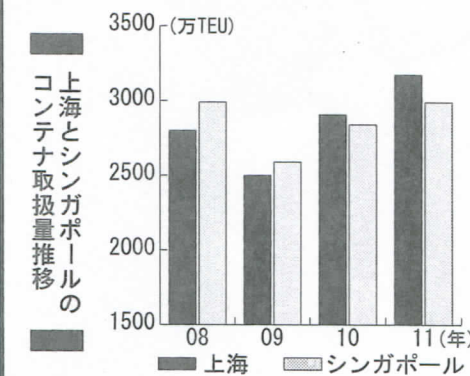
### 上海の世界1位が確定

シンガポール海事港湾庁がまとめた2011年1-12月累計のシンガポール港コンテナ(速報値)は、前年比29.9%増となった。同港は08年の高だった08年の

万TEUに並ぶ取扱い実績となったが、3000万TEUにはわずかに

11年のシンガポール港の総貨物取扱量は5%増の5億3050万トとな

別の寄港割合では、最も多いのがコンテナ船約



取扱量を伸ばして躍進。07年には2位となり、10年にシンガポールの港を抜いて初めて上海港が世界1位となった。11年の上海港は3173万

### アジア10カ国出し米向け

11年は1.5%減 1304万TEU

ゼボ集計

米国民間統計サービス(ZeBo)が13日までにまとめたアジア10カ国出し米向けコンテナ貨物量は、10カ国合計が前年比1.5%減の1304万TEUだった。米国東航はリーマン・ショック後

の荷動き急減期を経て、安定した成長路線の回復が期待されていたが、米国の景気回復遅れの影響を受け通年でマイナスにとどまった。

5万8000TEUで0.3%増だったものの、シア1割の香港積みが増え、振るわず15.6%減の14万8000TEUにとどまった。

000TEU、4位の台湾は2.8%増の92万2000TEU、5位の日本は2.4%減の63万TEUだった。台湾は母船の積み地ベースでは増加したが、荷受け地ベースでは減少しており、トランプシップ貨物が増えたことによる。

ベトナム積みは3割超の増加となったほか、マレーシアもプラス成長だ

12月単月では、10カ国合計が99万2000TEUで0.7%減だった。内訳は中国積みが58万2000TEUで前年同月比0.3%増、香港積みは8万3000TEUで

11.8%減、韓国積みは10万6000TEUで12.7%増、日本積みは5万3000TEUで3.8%減だった。

ゼボ社は米国税関が公表するAMS (Automated Manifest System)・BL (船荷証券) 記載データを、独自の検索エンジンでデータベース化しており、早期の実績公表が特徴。

11.8%減、韓国積みは10万6000TEUで12.7%増、日本積みは5万3000TEUで3.8%減だった。